

事前評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業計画期間	平成30年度～平成34年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	（いしかりそらち） 石狩空知森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 いしかり 石狩森林管理署 そらち 空知森林管理署 そらち 空知森林管理署北空知支署
事業の概要・目的	本事業は、北海道の中央部よりやや西寄りに位置する、札幌市を含む14市14町2村に所在する国有林約445千haを対象としている。 人工林面積は約21%にあたる約93千haで、そのうち間伐の対象となる林分が約8割となっている。さらに今後は主伐対象となる林分も増え、併せて更新面積の増加が見込まれることから、森林整備の重要性が高くなっている。 本森林計画区は、北空知地域（空知森林管理北空知支署管内）、夕張山系地域（空知森林管理署管内）、定山溪・千歳地域、浜益・厚田・当別地域及び積丹地域（石狩森林管理署管内）の5地域により構成されている。 北空知地域は、石狩川の支流である雨竜川上流の両岸に位置し、道内有数の寒冷多雪地帯であり、厳しい気象条件の影響等から、人工林等においては期待した成長が見込めず、笹生地又は疎林化した森林も分布している。地域内には、朱鞠内湖をはじめ、多くの飲料用、農業用水等の貯水施設があることから、上流部にある国有林野は、その水源地として水源涵養の役割が求められている。また、崩壊地等の脆弱な地質が広く分布することから、土砂の流出等を防ぐ山地保全の役割を果たすことも期待されている。 夕張山系地域は、夕張岳（1,668m）、芦別岳（1,727m）を主峰として、空知川、幾春別川、夕張川等の集水域となっている山地で、桂沢湖、シューパロ湖をはじめ、多くの飲料用、農業用水等の貯水施設があることから、上流部にある国有林野は、その水源地として水源涵養の役割を果たすことが期待されている。 定山溪・千歳地域は、朝里岳（1,281m）、無意根山（1,464m）、漁岳（1,318m）、恵庭岳（1,320m）を主峰として、豊平川、千歳川、漁川等の集水域となっている山地である。この地域の森林は、ほとんどが水源かん養保安林に指定され、近郊都市圏の水源地として重要な役割を担っている。また、支笏洞爺国立公園や野幌森林公園道立自然公園森林については、人工林を主体に、平成16年の台風18号により多大な風倒被害を受けたところであり、その跡地を早期に復旧し、森林の役割を十分に果たすことが求められている。 浜益・厚田・当別地域は、石狩市浜益区・厚田区及び当別町の日本海に面する海岸線から内陸に位置し、この地域の森林は、ほとんどが水源かん養保安林に指定され、水源涵養の役割が求められているとともに、厚田川上流域では岩石地等が多く介在していることから、山地保全の役割を果たすことも期待されている。 積丹地域は、積丹半島から朝里岳までの日本海に面する海岸線から内陸に位置し、この地域の森林は、ほとんどが水源かん養保安林に指定され、水源涵養の役割が求められているとともに、美国川、余市川上流域では岩石地等が多く介在していることから、山地保全の役割を果たすことも期待されている。 本森林計画区内の産業としては、作付け面積が全道の約半数を占める水稲をはじめとする農業や、サケ、ホタテ貝、ニシン等が主要生産魚種となっている漁業が地域の基幹産業となっており、これらの繁栄に繋がる適切な森林の管理経営が求められている。 本事業は、これらの地域の期待に応えるとともに地球温暖化防止にも積極的に寄与するために必要な植栽等の更新作業、間伐等の保育作業及び効率的な森林整備を推進するための路網整備を実施する。		

	<table><tr><td rowspan="4">主な事業内容</td><td>森林整備</td><td>更新面積</td><td>2,299</td><td>ha</td></tr><tr><td></td><td>保育面積</td><td>50,009</td><td>ha</td></tr><tr><td>路網整備</td><td>開設延長</td><td>83.7</td><td>km</td></tr><tr><td></td><td>改良延長</td><td>2.4</td><td>km</td></tr><tr><td colspan="2">総事業費</td><td colspan="3">9,009,286 千円</td></tr></table>	主な事業内容	森林整備	更新面積	2,299	ha		保育面積	50,009	ha	路網整備	開設延長	83.7	km		改良延長	2.4	km	総事業費		9,009,286 千円		
主な事業内容	森林整備		更新面積	2,299	ha																		
			保育面積	50,009	ha																		
	路網整備		開設延長	83.7	km																		
		改良延長	2.4	km																			
総事業費		9,009,286 千円																					
費用便益分析	総 便 益 (B) 49,584,283 千円																						
	総 費 用 (C) 13,175,123 千円																						
	分析結果 (B／C) 3.76																						
森林管理局事業評価 技術検討会の意見	事業の必要性、効率性、有効性が認められることから、本事業を実施することが妥当であると考えます。																						
評価結果	・ 必要性： 本地域は、大半が保安林となっており、都市圏の水源地として、また、農業の振興や漁場の保全に資する観点から、水源涵養機能の高度発揮が求められている。更に、地球温暖化防止対策や国土保全に寄与する観点からも事業の必要性が認められる。 ・ 効率性： 費用便益分析の結果から、事業の効率性が認められる。 ・ 有効性： 本事業により、森林が健全な状態に維持され、水源涵養、国土保全、地球温暖化防止等の公益的機能の発揮が期待される。また、効率的な森林整備により、地域の基幹産業である農業や漁業の振興にも資することから、事業の有効性が認められる。 新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用便益分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能（特に水源涵養）に応じた適切な森林整備及び路網整備が効率的に計画されていると認められる。																						

事前評価表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業計画期間	平成30年度～平成34年度（5年間）																										
事業実施地区名 （都道府県名）	（かみかわほくぶ） 上川北部森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 かみかわほくぶ 上川北部森林管理署																										
事業の概要・目的	本事業は、北海道の中央からやや北の内陸部に位置する、士別市を含む2市3町に所在する国有林約164千haを対象としている。 人工林面積は約21%にあたる約35千haで、そのうち間伐の対象となる林分が約9割近くとなっている。さらに今後は主伐対象となる林分も増え、併せて更新面積の増加が見込まれることから、森林整備の重要性が高くなっている。 本森林計画区は、天塩山地を中心とする北部地域（中川町）と北見山地を中心とする南部地域（名寄市、士別市、下川町及び和寒町）の2地域から構成される。 北部地域は、天塩川の支流である安平志内川等の両岸に位置した南北に長い地域で、これらの河川には水道施設等があることから、上流部にある国有林野のほとんどが水源かん養保安林に指定され、その水源地として水源涵養の役割が期待されている。また、地滑りや崩壊地等も見られ、脆弱な地質が分布していることから、土砂の流出等を防ぐ山地保全の役割も重視した管理経営を行うこととしている。 南部地域は、天塩岳（1,558m）、ウエンシリ岳（1,142m）を主峰として、天塩川、名寄川等の集水域となっている山地で、岩尾内湖をはじめ、多くの飲料用、農業用水等の貯水施設があることから、上流部にある国有林野の多くは水源かん養保安林に指定されており、その水源地として水源涵養の役割を果たすことが求められている。 本森林計画区内では、南部は稲作・畑作、北部は畑作・酪農を中心とした農業が地域の基幹産業となっており、農業の繁栄に繋がる適切な森林の管理経営が求められている。 本事業は、これらの地域の期待に応えるとともに地球温暖化防止にも積極的に寄与するために必要な植栽等の更新作業、間伐等の保育作業及び効率的な森林整備を推進するための路網整備を実施する。 <table><tr><td>主な事業内容</td><td>森林整備</td><td>更新面積</td><td>244</td><td>ha</td></tr><tr><td></td><td></td><td>保育面積</td><td>15,793</td><td>ha</td></tr><tr><td></td><td>路網整備</td><td>開設延長</td><td>16.7</td><td>km</td></tr><tr><td></td><td></td><td>改良延長</td><td>0.1</td><td>km</td></tr><tr><td>総事業費</td><td colspan="4">2,940,235 千円</td></tr></table>				主な事業内容	森林整備	更新面積	244	ha			保育面積	15,793	ha		路網整備	開設延長	16.7	km			改良延長	0.1	km	総事業費	2,940,235 千円			
主な事業内容	森林整備	更新面積	244	ha																									
		保育面積	15,793	ha																									
	路網整備	開設延長	16.7	km																									
		改良延長	0.1	km																									
総事業費	2,940,235 千円																												
費用便益分析	総便益（B）		26,775,746 千円																										
	総費用（C）		5,826,835 千円																										
	分析結果（B／C）		4.60																										
森林管理局事業評価 技術検討会の意見	事業の必要性、効率性、有効性が認められることから、本事業を実施することが妥当であると考える。																												
評価結果	・必要性： 本地域は、大半が保安林に指定されており、地域の水源地として、また、地域の基幹産業である農業の振興に資する観点で重要であることから、水源涵養の役割を果たすことが期待されている。更には、地球温暖化防止対策や国土保全に寄与する観点からも事業の必要性が認められる。 ・効率性： 費用便益分析の結果から、事業の効率性が認められる。 ・有効性： 本事業により、森林が健全な状態に維持され、水源涵養、国土保全、地球温暖化防止等の公益的機能が期待される。また、効率的な森林整備により、地域の基幹産業である農業の振興にも資することから、事業の有効性が認められる。																												

新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用便益分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能（特に水源涵養）に応じた適切な森林整備及び路網整備が効率的に計画されていると認められる。

事前評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業計画期間	平成30年度～平成34年度（5年間）	
事業実施地区名 （都道府県名）	（しりべしいぶり） 後志胆振森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 しりべし 後志森林管理署	
事業の概要・目的		本事業は、北海道の中央から南西部に位置する、登別市を含む3市10町4村に所在する国有林約130千haを対象としている。 人工林面積は約12%にあたる約16千haで、そのうち間伐の対象となる林分が約8割となっている。さらに今後は主伐対象となる林分も増え、併せて更新面積の増加が見込まれることから、森林整備の重要性が高くなっている。 この地域は、岩内、倶知安、室蘭、黒松内の4地域により構成されている。 岩内地域は、ポンネアンチシ山（1,145m）を最高峰とする積丹半島脊梁山稜の南西部に位置する森林と、ニセコアンヌプリから雷電峠まで続くニセコ火山群、雷電火山群に連なる峰に形成されている森林に分かれている。積丹半島側の流域については、河川長が短い上、急流のまま海岸に注いでいることから、上流部にある国有林野は、道路、住宅の生活域及び沿岸水域の保全のため、土砂の崩壊等を防ぐ山地保全や水源涵養の役割が求められている。 倶知安地域は、三角山から無意根山、中山峠等（共和町と倶知安町との境界から喜茂別町と伊達市との境界まで）に続く山稜に位置する森林と、貫気別岳周辺等の森林に分かれている。これらの森林については、中心的河川である尻別川の集水域となっており、水源涵養の役割を果たすことが期待されている。 室蘭地域は、中山峠から美笛峠、ホロホロ山、オロフレ山までの山稜、また、それから分かれた鷲別岳及び登別温泉に続く山稜に位置する森林と、有珠山及び洞爺湖周辺等の森林に分かれている。美笛峠等の山稜側の森林については、長流川、登別川及び胆振幌別川等の集水域となっており、地域の水源地として水源涵養の役割が求められている。有珠山周辺の森林については、火山灰が厚く堆積して泥流等の発生する危険度が高く、土砂の流出等を防ぐ山地保全の役割が果たされることも期待されている。 黒松内地域における、折川、大平川等の集水域となっている森林や海岸線沿いの森林については、複雑に入り組んだ地形等にあることから、土砂の流出・崩壊を防ぐ山地保全の役割を果たすことが期待されている。 本森林計画区内の産業としては、野菜、果樹、水稻、畜産などの農業が盛んである。また、日本海側ではホッケ等が主要生産魚種となっている漁業も行われており、これらの繁栄に繋がる適切な森林の管理経営が求められている。 本事業は、これらの地域の期待に応えとともに地球温暖化防止にも積極的に寄与するために必要な植栽等の更新作業、間伐等の保育作業及び効率的な森林整備を推進するための路網整備を実施する。		
		主な事業内容	森林整備	更新面積 540 ha 保育面積 6,267 ha 路網整備 開設延長 38.4 km 改良延長 0.5 km
		総事業費	2,982,462 千円	

費用便益分析	総 便 益 (B)	10,986,974 千円
	総 費 用 (C)	4,081,142 千円
	分析結果 (B/C)	2.69
森林管理局事業評価 技術検討会の意見	事業の必要性、効率性、有効性が認められることから、本事業を実施することが妥当であるとする。	
評価結果	・必要性： 本地域は、大半が保安林に指定されており、地域の水源地として、また、地域の基幹産業である農業や沿岸漁業が盛んな日本海の漁場の保全等に資する観点から、水源涵養の役割を果たすことが期待されている。また、火山や急峻な地形が多いことから、山地保全の役割が求められている地域であり、更には、地球温暖化防止対策や国土保全に寄与する観点からも事業の必要性が認められる。 ・効率性： 費用便益分析の結果から、事業の効率性が認められる。 ・有効性： 本事業により、森林が健全な状態に維持され、水源涵養、国土保全、地球温暖化防止等の公益的機能の発揮が期待される。また、効率的な森林整備により、地域の基幹産業である農業や漁業の振興にも資することから、事業の有効性が認められる。 新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用便益分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能（特に水源涵養）に応じた適切な森林整備及び路網整備が効率的に計画されていると認められる。	